

第83回日本産業衛生学会の開催について

(企画運営委員長 日下：幸則)

第83回日本産業衛生学会ならびに特別研修会は北陸甲信越地方会が担当となり、2010年5月26日から28日(特別研修会：29日)にかけて、福井県福井市のフェニックス・プラザと福井県国際交流会館の2会場で開催された。

当地方会が年次学会の担当となるのは1997年以来13年ぶりだったこともあり、北陸甲信越を盛り上げようと、企画運営委員の先生方、当地方会に縁のある先生方、関係する諸機関が精力的に汗を流してくださった。おかげで、「21世紀の新しい産業保健ーリスク管理から疾病予防までー」というテーマに即した幅広い企画を催すことができた。企画運営委員会が準備した主な企画は以下の通りである。

特別講演：「心と体のがんばらない健康法」 鎌田實先生

招待講演：「産業保健ニーズの変化と良好実践の目標」 小木和孝先生

教育講演1：「死亡率減少を達成するために大腸がん検診に求められるものー地域がん登録との記録照合による大腸がん検診の精度を含めてー」 松田一夫先生

教育講演2：「労働の中に潜むリスクを追求してこそー職業がん、サーベイランス、そして日本の職業疫学のこれからー」 毛利一平先生

教育講演3：「近年の企業活動における産業人間工学のニーズ」 瀬尾明彦先生

教育講演4：「食の安全ーコメの魅力 ミルクの魔力ー」 佐藤章夫先生

教育講演5：「アジアにおける産業看護の展開」 河野啓子先生

教育講演6：「胃がんのA, B, C, (D) リスク別検診：ABC (D) 検診の現状と将来展望」
三木一正先生

教育講演7：「化学熱傷の怖さー現場での初期対応と労働衛生管理の重要性ー」
河野公一先生

メインシンポジウム1：「労働者の安全と健康を守る産業衛生とは」

メインシンポジウム2：「企業におけるうつ病対策」

メインシンポジウム3：「企業における新型インフルエンザ対策ー垣間見た脅威からまだ見ぬ危機に備えるー」

シンポジウム1：「代替医療と産業保健」

シンポジウム2：「原子力産業の21世紀展望」

シンポジウム3：「有機溶剤中毒と生物学的モニタリング研究の過去と現在、未来」

シンポジウム4：「小規模事業所における産業保健活動活性化の方策ー同業種団体を通じてのアプローチー」

シンポジウム5：「振動による健康障害予防の新しい展開とその評価ー35年を経た改定

と国内外の動向ー」

シンポジウム 6：「国際調和分類基準（GHS）に準拠した感作性化学物質の分類基準とリストの改訂」

シンポジウム 7：「大学における産業保健と環境保健」

シンポジウム 8：「これからのエイジマネジメントー60歳からの労働、その産業衛生課題と対策ー」

シンポジウム 9：「特定健康診査・特定保健指導が産業保健にもたらしているもの」

シンポジウム 10：「病院勤務医師の労働条件の課題と展望：ディーセントワークの実現に向けて」

シンポジウム 11：「工業ナノマテリアルの労働衛生リスクを巡って」

地域交流集会（市民公開）：「地域・職域における自殺予防」

労働衛生史研究会：「日本産業衛生学会北陸甲信越地方会ーその軌跡と展望ー」

日本学術会議・第 83 回日本産業衛生学会共催シンポジウム（市民公開）：

「雇用労働環境と労働者の健康・生活・安全」

学会期間中は 2435 名の参加があり、懇親会は 452 名、特別研修会は 220 名の参加があった。一般演題は 568 題（口演：244、ポスター：324）の発表があり、活発な議論が交わされた。他に、日本産業衛生学会の 4 部会（産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会）によるフォーラム、学会賞・奨励賞受賞講演、各委員会・研究会・自由集会も行われた。

近年の年次学会は都市部での開催が続いていたが、今回は地方での開催となった。福井には大きな施設がないので会場が 2 箇所となり、宿泊施設や交通機関も十分ではなく、その他、学会運営や参加者を募る上では不利な条件がいくつかあって、学会当日まで「無事に開催できるか」、「参加者が集まるか」と憂慮していたが、実際に始まってみると、（会場が狭かったこともあるが）どの企画も立ち見が出るほどの盛況となり、懇親会や特別研修会にも予想を上回る参加があった。

終わりに、学会に参加していただいた日本産業衛生学会の会員、演者、シンポジスト、座長の皆様、そして、運営に尽力していただいた企画運営委員会、北陸甲信越地方会、関係諸機関の皆様、また、経済的なご支援をいただいた企業、団体、個人の皆様に衷心より感謝申し上げます。

第20回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会

(企画運営委員長：清田 典宏)

去る平成22年10月13日(水)から10月16日(土)までの4日間、第20回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会が北海道立道民活動センター「かでの2・7」にて開催された。メインテーマは自殺やメンタル対策など産業保健スタッフの役割が大きくなり、今一度原点に立ち、働きがいのある職場環境とは何か、そのための産業保健スタッフの役割は何かと考え、「働きがいのある職場環境と産業保健の役割」とした。協議会には産業衛生学会 大前和幸理事長をはじめとして500名を超えるご参加をいただいた。以下に主な企画の演題のみ報告する。各会場とも参加者の活発で熱心な討論が見られ実務に生かせる意義ある協議会となった。

- ① メインシンポジウム (働きがいのある職場環境と産業保健の役割)
- ② 特別講演 (“正規・非正規”を超えて、働く人々の健康と安全を考える)
- ③ シンポジウムⅠ (特定健診・特定保健指導一制度スタート後3年目の評価)
- ④ シンポジウムⅡ (メンタルヘルスにおける職場復帰を考える)
- ⑤ 4部会合同セミナー (職場巡視・ワークショップ・プレゼンテーション)
- ⑥ ポスター展示 (38題)
- ⑦ リレーワークショップ (産業保健における連携)
- ⑧ 実地研修 (石屋製菓株式会社・アサヒビール(株)北海道工場・株式会社協和機械製作・株式会社ミルクの郷)
- ⑨ 産業医部会企画 (働きがいのある職場を生み出す産業医活動について)
- ⑩ 産業看護部会企画 (働きがいのある職場環境を考える ～看護の専門性から～)
- ⑪ 産業歯科保健部会企画 (産業歯科保健活動の有益性とその共有化を目指して)

その他、産業栄養研究会、職業性呼吸器疾患研究会、騒音障害防止研究会、交通における安全と衛生の研究会、自由集会(産業医限定)、産業保健情報政策研究会、ランチオンセミナーも4題行われた。また、専門医認定証授与式では26名の専門医があらたに誕生された。今後のご活躍に期待したい。

懇親会には170名が参加し恒例のポスター表彰式も行われ、参加の方々には宴の最後までご歓談され会員相互の交流に実をあげられていた。

無事終了でき、北海道地方会として関係各位に対して感謝申し上げます。なお、来年度は福岡産業保健推進センター所長の織田進先生を企画運営委員長として福岡市で開催されます。また九州の地で元気な出合いができることを祈念いたしましてご報告を終わらせていただきます。